

情報処理学会四国支部平成 22 年度通常総会

日時： 平成 22 年 5 月 14 日(金)14:30～15:20

場所： 高知大学総合情報センターメディアの森 6F メディアホール
(〒780-8520 高知市曙町 2-5-1)

1. 総会 14:30～15:00

- 開会の辞
- 支部長挨拶
 - 高知大学理学部 菊地 時夫 教授
- 本部役員挨拶
 - 情報処理学会副会長 村上 篤道 (三菱電機フェロー)
- 総会議事
 - 平成 21 年度事業報告および収支決算報告
 - 会計監査報告
 - 役員改選報告
 - 平成 22 年度事業計画および予算案
 - 論文推薦方法の変更について
- 新役員紹介
 - 新支部長 愛媛大学大学院理工学研究科 小林 真也 教授
 -
- 閉会の辞

2. 講演会 15:30～16:30

講演者:三菱電機フェロー 村上篤道 氏

講演表題:『映像符号化技術(MPEG)とデジタル放送 ～De-FactoとDe Jure 標準～』

3. 懇親会 ～18:00 頃

平成 21 年度事業報告

【1】 通常総会・記念講演会

平成 21 年 5 月 15 日 高知大学 メディアの森 6階 セミナールーム
~~412名(うち委任状372名含む)~~, 83名 (委任状69を含む)

【2】 定例役員会等 3回

支部役員会 平成 21 年 5 月 15 日	高知大学 セミナールーム	10 名
支部役員会 平成 21 年 10 月 31 日	高知市コンフォートホテル	9 名
支部役員会 平成 22 年 3 月 27 日	高知市コンフォートホテル	9 名

【3】 支部大会

電気関係学会四国支部連合大会 平成 21 年 9 月 26 日(土) 愛媛大学

【4】 支部 20 周年記念事業

1) 四国オープンソースセミナー (オープンソースカンファレンス 2009Kochi)

平成 21 年 11 月 14 日

高知市文化プラザかるぼーと (中央公民館 9F,11F)

オープンソースに関する最新情報の提供

* 展示会: オープンソースコミュニティ, 企業・団体による展示

18 団体 (企業/コミュニティ)

* セミナー: オープンソースの最新情報を講義形式で提供

17 件 (高知県における基幹システムの移行について 他)

参加者: 90 名 (一般) <http://www.ospn.jp/osc2009-kochi/>

2) EPOCH@まつやま

平成 21 年 11 月 22 日 愛媛大学総合情報メディアセンター

平成 21 年 11 月 23 日 - EPOCH@まつやま (実行委員会に参加)

大学生以下の学生・生徒を対象としたプログラミングコンテスト

- 予選通過 20 チームにより本選が行われた。

【5】 支部講演会・研究会等 7回

題目:「IT フィールドで成功するためのコミュニケーション」平成 21 年 10 月 6 日 香川大学

講師: 所 千恵 氏 (アーヴァイン・システムズ)

題目:「組込システムとフラッシュメモリ」平成 21 年 10 月 16 日 香川大学

講師: 田中 康之 氏 (京都ソフトウェアリサーチ)

題目:「組込みシステムの品質保証最前線」平成 21 年 10 月 23 日 香川大学

講師: 秋山浩一氏 (富士ゼロックス)

題目:「Web アプリケーション開発の裏側」平成 21 年 11 月 9 日 香川大学

講師: 平 治彦 氏 (日本データパシフィック/ウェブクラス)

題目:「エンタープライズシステムの品質保証について」平成 21 年 12 月 11 日 香川大学

講師: 鈴木 三紀夫 氏 (TIS 株式会社)

演題:『Open Innovation のための新世代ネットワーク』平成 21 年 12 月 14 日 愛媛大学

講師: 下條 真司 (情報通信機構)

題目:「情報産業関連業界の概況と動向」平成 22 年 2 月 22 日 高知大学

講師: 山田 明宏氏 (株式会社 ALSI)

【6】 学生奨励賞

電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会四国支部奨励賞

平成 22 年 2 月 15 日 (共同)

平成21年度 収支決算および平成22年度予算(案)

収入の部(単位:円)

収入	平成21年度		平成22年度
	予算	決算見込	予算
本部からの繰入	1,280,000	1,280,000	1,280,000
支部交付金相当額	1,280,000	1,280,000	1,280,000
記念事業支援金相当額	0	0	0
事業収入	0	0	0
雑収入(利息等)	0	1,069	0
積立取崩等(任意)	0	0	0
当期収入合計(A)	1,280,000	1,281,069	1,280,000
前期繰越収支差額	3,803,313	3,803,313	2,866,054
収入合計(B)	5,083,313	5,084,382	4,146,054

支出の部(単位:円)

支出	平成21年度		平成22年度
	予算	決算見込	予算
事業費	1,740,000	1,638,149	880,000
支部連合大会	100,000	100,000	100,000
講演会	300,000	340,187	300,000
研究会・後援など	240,000	130,000	400,000
支部20周年記念事業	1,000,000	988,438	0
学生奨励賞表彰	100,000	79,524	80,000
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
事務費	860,000	580,179	670,000
評議員会・幹事会	390,000	283,050	360,000
総会	200,000	155,291	70,000
事務委託会社への委託費	90,000	106,889	100,000
ホームページサーバ使用料	0	0	70,000
その他	150,000	0	40,000
雑費	30,000	34,949	30,000
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	2,600,000	2,218,328	1,550,000
当期収支差額(A-C)	-1,320,000	-937,259	-270,000
次期繰越収支差額(B-C)	2,483,313	2,866,054	2,596,054

記決算について監査した結果、収入および支出とも適正に処理されていたことを認めます

平成 22 年 4 月 5 日

情報処理学会四国支部

監事

北 研 二



【資料 3】

掲載省略

【資料 4】平成 22 年度役員名簿（案）

掲載省略

平成 22 年度活動計画

平成 22 年度事業として、下記の事業を計画し、会員相互の啓発と交流を図る。

【1】支部通常総会

議事:新年度役員承認,平成 21年度事業報告と収支決算承認,平成 22
年度事業計画ならび に収支予算決定,その他
記念講演会

【2】役員会等 4回

幹事および評議員合同会議を 4 回実施する。(5 月, 10 月, 3 月, 5 月)

【3】支部大会

電気関係学会四国支部連合大会を共催する

【4】支部講演会

7 回の講演会の実施・後援をする。実施にあたり、支部会員にとって有意義な
テーマを選定する。

【5】支部共催事業

四国オープンソースセミナー (オープンソースカンファレンス 2010 高松)
EPOCH@まつやま

【6】 学生奨励賞

電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会四国支部奨励賞等を贈呈する。

【7】その他

四国地区における情報関連学会との交流を図る。

推薦論文制度の改訂と論文誌特集号について

社団法人 情報処理学会
論文誌ジャーナル/JIP編集委員会
委員長 田中 譲
副委員長 宗森 純

昨今、ジャーナル/JIP 論文誌編集委員会では、掲載論文数が減少傾向にあるためその対策として、特集号・推薦論文につき検討し、以下のとおり推薦論文制度を改訂いたしました。優れた論文のご推薦をこれまでよりも一層広い範囲から求めるべく提案母体の拡充をいたしましたので、是非、本制度をご利用いただければと存じます。

なお、ここでいう優れた論文とは、学術的に大きな意義と新規性を持ち、未発表であること、その主張の妥当性が明白かつ客観的に示されている論文を指します。国際的競争の中にあって緊急性を要する課題に関する新しい重要な学術的成果に関する論文で、実際の応用環境における有用性評価に多大な時間を要することが明らかな場合には、速報性を重視する観点から、論理的妥当性は十分に示されてはいるものの実評価が充分とは言えない論文も、優れた論文と認める場合があります。

➤ 推薦論文の提案母体の拡充

これまでの各イベントからの推薦（**A：各イベントからの推薦**）に加え、1年間の発表の中からもご推薦いただけるようになりました。研究会または支部主催で開催されたイベントの1年間のご発表よりご推薦ください。これを以下のように呼びます。

B：研究会および支部による1年間の発表の中からの推薦

イベント毎の推薦もこれまで通り受け付けております。ひとつひとつのイベントの規模が小さく単独のイベントでは推薦が困難であったもの、支部の場合は、支部大会の2ページのものを基としていただけますので、是非ご推薦ください。

さらに、これまで国際会議からの推薦に関しては、本会主催のものにかぎられていたところを、本会共催の国際会議まで含めることにしました。

➤ 年間発表からの推薦の論文投稿期限

「B：研究会および支部による1年間の発表の中からの推薦」が承認されたものは、発表後24ヶ月まで投稿いただくことが可能です。

また、特集号の企画提案に関しましては、提案者や予想投稿数の規模に制限はございません。具体的には、例えば

- ・ 特定領域研究、ERATO、国主導のプロジェクトなどの大型プロジェクトの成果に関する特集
- ・ シンポジウムや国際会議を母体とした特集
- ・ 情報処理分野が今後進むべき方向に関する特集：例えばグリーンIT特集
- ・ 情報処理分野全体にまたがる特集や、いまは萌芽段階であるが、これから重要となりそうな分野に関する特集
- ・ 3つの領域（コンピューターサイエンス、情報環境、フロンティア）の各々で最近話題になっている研究内容に関する特集

などのような特集号の企画を期待し、ご提案をお待ちいたしております。

推薦論文制度

(変更箇所：下線部分)

1997年7月1日制定
2010年4月21日改訂(10)

本会主催の研究会、シンポジウム、ワークショップ、本会が主催ないし共催する国際会議、および支部主催シンポジウムにおいて発表された論文の中で、主催者またはプログラム委員会が優秀な論文と認定した論文を「推薦論文」と呼ぶ。推薦論文には、各イベントからの推薦と、研究会および支部による1年間の発表の中からの推薦との2つがある。

A：各イベントからの推薦

主催者またはプログラム委員会は、「推薦論文」を以下の手続きに従って論文誌ジャーナル/JIP編集委員会に推薦することができる。ただし、推薦者は下記の通りである。

研究会：研究会主査*

シンポジウム：プログラム委員長または主催する研究会の主査*

ワークショップ：プログラム委員長または主催する研究会の主査*

国際会議：本会会員のプログラム委員長または主催・共催する本会研究会の主査*

支部主催シンポジウム：プログラム委員長または主催する支部の支部長

*研究会、シンポジウム、ワークショップ、国際会議については、推薦が総意によってなされたことが分かる書類を添付することで、指定された推薦人の代理人をたてることを認める。

以下、推薦から査読そして掲載に至る手続きを述べる。

(1) 研究会主査/支部長/プログラム委員長は、推薦者として推薦論文推薦書を論文誌ジャーナル/JIP編集委員会に提出する。なお、各イベントあたりの推薦論文数は、発表論文のうち、ページ数が6ページ以上の論文の総数の10%以内とする。

(2) 論文誌ジャーナル/JIP編集委員会は推薦者に、推薦論文の審査を担当する特別編集委員を委嘱する。ただし、支部主催シンポジウムの場合は推薦者が特別編集委員を推薦し委嘱する。推薦者は、論文誌ジャーナル/JIP編集委員会が規定するプロセスに従い査読する。なお、特別編集委員は、担当する推薦論文が判定される論文誌ジャーナル/JIP編集委員会小委員会に可能な限り参加し、判定に関する説明を行うものとする。

(3) 推薦論文が採録になった場合には、推薦論文を掲載する際、論文タイトルの脚注に下記の推薦文を添える。「本論文の内容は〇〇年〇月の〇〇〇〇研究会/シンポジウム/ワークショップ/国際会議/支部主催シンポジウムにて報告され、同研究会主査/支部長/プログラム委員長により情報処理学会論文誌ジャーナルへの掲載が推薦された論文である」。推薦論文の英語名はRecommended Paperとする。

(4) 推薦論文が不採録になった場合には、その時点で推薦論文としての処理は終了する。

(5) 推薦論文推薦書の提出締切は、上記本会主催イベントの終了後6ヵ月以内とする。推薦論文の投稿締切は上記本会主催イベントの終了後12ヵ月以内とする。

B：研究会および支部による1年間の発表の中からの推薦

「推薦論文」を以下の手続きに従って論文誌ジャーナル/JIP編集委員会に推薦することができる。発表後の推薦投稿の有効期限はいずれも24ヵ月以内とする。

(b-1) 研究会による推薦論文

(1) 1年間の研究会における発表の中から、主査、幹事による選定を経て、2編を主査・幹事全員の連名で推薦可能とする。(研究会が主催するシンポジウムからの推薦論文数は外数)(日本語、英語2編ずつの枠)

(2) 研究会は、論文誌ジャーナル/JIP編集委員会が割り振った推薦時期に推薦を行うものとする。

(3) 論文誌ジャーナル/JIP編集委員会は、推薦書の推薦者のうちあらかじめ特別編集委員に指定してある1名に、推薦論文の審査を担当する特別編集委員を委嘱する。特別編集委員は、論文誌ジャーナル/JIP編集委員会が規定するプロセスに従い査読する。なお、特別編集委員は、担当する推薦論文が判定される論

文誌ジャーナル/JIP 編集委員会小委員会に可能な限り参加し、判定に関する説明を行うものとする。

- (4) 推薦論文が採録になった場合には、推薦論文を掲載する際、論文タイトルの脚注に下記の推薦文を添える。「本論文の内容は〇〇年〇月の〇〇〇〇研究会／シンポジウム／ワークショップにて報告され、同研究会主査・幹事全員（全員）により情報処理学会論文誌ジャーナルへの掲載が推薦された論文である」。推薦論文の英語名は Recommended Paper とする。
- (5) 推薦論文が不採録になった場合には、その時点で推薦論文としての処理は終了する。

(b-2) 支部による推薦論文

- (1) 各支部で毎年2編の論文を支部会で選定し、支部長名で推薦可能とする。支部大会の2ページのものを基としてよい（日本語、英語2編ずつの枠）
- (2) 支部は論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会が割り振った推薦時期に推薦を行うものとする。
- (3) 論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会は推薦者に、推薦論文の審査を担当する特別編集委員を委嘱する。ただし、支部主催シンポジウムの場合は推薦者が特別編集委員を推薦し委嘱する。推薦者は、論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会が規定するプロセスに従い査読する。なお、特別編集委員は、担当する推薦論文が判定される論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会小委員会に可能な限り参加し、判定に関する説明を行うものとする。
- (4) 推薦論文が採録になった場合には、推薦論文を掲載する際、論文タイトルの脚注に下記の推薦文を添える。「本論文の内容は〇〇年〇月の支部研究会／支部主催シンポジウム等にて報告され、支部長により情報処理学会論文誌ジャーナルへの掲載が推薦された論文である」。推薦論文の英語名は Recommended Paper とする。
- (5) 推薦論文が不採録になった場合には、その時点で推薦論文としての処理は終了する。

本制度は2010年4月1日より適用する。

平成 年 月 日

論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会 御中

推薦論文推薦書

研究会／シンポジウム／ワークショップ／国際会議／支部主催のシンポジウム／支部大会等
研究会主査／支部長／プログラム委員長：〇〇〇〇

推薦論文として下記の論文を推薦いたします。

題目：
著者：
著者連絡先：

出典、開催日：

推薦理由：

著者の同意：得ている。これから得る。
推薦率（推薦元イベントの発表論文中、推薦論文数の割合）： %

備考欄：
特別編集委員（支部主催シンポジウムの場合）：

以上